

2011年9月10日(土)―11月6日(日)

開館時間 ● 午前9時―午後5時

※入館は午後4時30分まで
※9月10日(土)の一般公開は開会式終了後の
午前10時30分からとなります。

休館日 ● 毎週月曜日

※ただし9月19日、10月10日は開館、9月20日(火)は休館
※会期中、展示替を行います。

観覧料 ● 一般500円(400円)、小・中学生無料

10月11日(火)は華山大祭のため無料開放

※毎週土曜日は高校生無料

※()は20人以上の団体料金

※吉胡貝塚資料館との共通券もあります。

主催 ● 田原市博物館・財団法人華山会
中日新聞社

後援 ● 愛知県教育委員会

江戸時代後期に入ると、江戸の繁栄を背景に、町人文化が最盛期を迎え、浮世絵などが流行します。この時期には、元や明時代の南宗画の影響を受け、文人画が生まれました。谷文晁は南宗画に北宗画を調和させ、狩野派・南蘋派・洋風画を学び、江戸画壇に新風を吹き込みます。その弟子には渡辺崋山・椿椿山・立原杏所等の画家が出て、関東の文人画界に大きな影響を与えました。

文人画家には、实景を題材として、「真景図」へ興味を高める画家が登場してきます。武士を中心とした知識人の関心は、名所図・図会の流行を生み出し、風景スケッチは、その伸びやかな感性ゆえに、完成画とは異なる魅力で見入る人を引き付けます。庶民は穏やかな風景版画の需要を呼び起こし、「東海道五十三次」などの風物を写生風に描いた連作の流行を生み出しました。

今回、谷文晁・渡辺崋山を中心に、同時期の洋風画家の作品から当時の人々が見た風景、幕末から明治に登場した名所浮世絵・図会を概観し、江戸という時代を現代によみがえらせて展覧します。

展示解説 |

9月25日(日)・10月16日(日)・10月30日(日)

いずれも午前11時―

講演会 |

「名所絵・山水画から風景画へ

～写生という視点から」

10月11日(火) 午後1時30分― 場所/華山会館

講師/板橋区立美術館長 安村敏信氏

出品作家 |

司馬江漢・亜欧堂田善・椿椿山・歌川広重など

同時開催 |

愛知県美術館サテライト展示

風景―木村定三コレクションを中心に

会場/企画展示室2

江戸後期の新たな試み

洋風画家谷文晁・渡辺崋山が描く風景表現

渡辺崋山没後170年 ● 田原市博物館／秋の企画展



重要文化財 渡辺崋山筆「千山万水図」(部分) / 天保12年(1841)
個人蔵【展示期間 9/27～10/23、その期間以外は複製を展示】



谷文晁筆「富士山図屏風」 / 天保6年(1835) / 静岡県立美術館蔵
【展示期間 9/10～10/23】



亜欧堂田善「大日本金龍山之図」 / 須賀川市立博物館蔵
【展示期間 9/27～10/23】



山形県指定有形文化財 谷文晁筆「熊舟行図巻」 / 文化元年(1804) / 山形美術館長谷川コレクション蔵【場面替あり】

田原市博物館

☎22局1720

http://www.taharamuseum.gr.jp